

第3回「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年8月17日（木） 10:00～12:00

【開催場所】 函館市役所8階第3会議室

【出席者】 委員）奥平委員（座長），山口委員，若松委員，大場委員，
岩田委員，中尾委員，安立委員

事務局）函館市企画部
種田部長，田畑室長，竹崎政策推進課長，
山口主査，菊地主事
函館市教育委員会学校教育課教育指導課
阿部指導主事

- 【次第】 1 開 会
- 2 議 事
(1) 盛り込むべき事項「芸術・文化，出来事，将来像，
その他」について
(2) その他
- 3 閉 会

議事 発言要旨

○芸術・文化について

【大場委員】

3年生の社会科で、地域に伝わる文化財や年中行事、郷土芸能やお祭りを取り上げ、その由来、伝承・発展させてきた方の思いなどを学んでおり、副読本では函館の「港まつり」を取り上げている。

映像に港まつりが始まった経緯、伝承・継続または発展させてきた方の思いがあるという。

【安立委員】

「港まつり」は、子供たちにも非常に身近で「いか踊り」を楽しむというイメージもある。

「港まつり」を「函館を好きになる・誇りを持てる」ことに繋げるなら、祭りは大火から元気になろうということでは始まったとか、「いか踊り」は市民の中から生まれてきたものであるという様に深めていく方向がよいと思う。

【奥平座長】

シティプロモーションの観点からも「港まつり」は大事だと思う。

【安立委員】

「国宝」や「直木賞・芥川賞作家」, 「函館が日本初のもの」など、外の評価を得たもの、比較できるものを紹介するのも大事だと思う。

【中尾委員】

インフラ整備が街造りの基本である。

その意味では大火に関連し、復興の一分野としての「水道」や湯の川温泉にも繋がる「馬車鉄道から電車の流れ」は取り上げたい。

絵になるものとして「五稜郭」や市民が立ち上げた「野外劇」も取り上げて欲しい。

函館は大火を克服し、復興へ注げるだけの市民のパワーがあったという観点からも取り上げて欲しい。

【奥平座長】

函館の祭りを時系列的に並べてみるのも面白いかもしれない。

私の小さい頃は、各商店街で露店を出す夜市があり、毎週末どこかで開催され大人も子供も行って楽しむ文化があった。

祭りや市民のパワーを映像化したら子供たちも惹き付けられると思う。

函館の芸術では、函館の港の賑わいを表している「市民会館の緞帳」は凄いなと思う。函館が栄えていた頃の記憶を絵で残していることを示せる。

【安立委員】

作家本人を取り上げるというより、その作家がどう函館を表現したかの方が身近だと思う。そういう観点が心に響くと思うので、芸術家が愛情をもって表した函館の素晴らしさを取り上げたい。

【奥平座長】

シティプロモーションの観点で入った方がいいかもしれない。

この部分は大人向けでいい感じがする。

【大場委員】

旧4町村の郷土芸能にも目を向ける必要があると思う。

【奥平座長】

「芸術・文化」部分については「祭り」を中心に映像をまとめていきたい。

○出来事について

【中尾委員】

北方の守りとして造られた歴史的遺産の「五稜郭」と函館の発展の歴史の中で生まれた「上下和洋折衷の住宅」、宗教が呉越同舟し一切争いがなかったこととして「4つの教会」と「東本願寺などの寺院」は取り上げたい。

【奥平座長】

上下和洋折衷住宅は公会堂まで話を持っていくことが出来る。

寺院と協会が建ち並ぶ景観は他の地域ではあまり見られない函館独自の景観で、外国人が喜ぶような美しい映像が作れると思う。

歴史的価値が高く函館の発展の置き土産でもある西部地区の「擁壁（石垣）」も挙げたい。

古く立派なものとしては、日下部家、旧日銀公宅跡、西校入口の石垣などがある。

【大場委員】

子供たちにとって函館に日本初の出来事が沢山あることは魅力的に感じる。

5年生の国語の授業では、自分たちの住んでいる街の一番を紹介する学習がある。ある子はその学習で「ガラナ」を取り上げていた。

【安立委員】

「ラッキーピエロ」も日本のご当地バーガーで一番をとったことがあり、そういう観点から紹介することで、全国的にも凄いんだという発見ができると思う。

函館の魅力として欠かせない「坂のある景色」も取り上げたい。地形や歴史なども盛り込みながら紹介すれば、改めていいなと思ってもらえる。

【奥平座長】

坂は大火と繋がる部分でもある。

【中尾委員】

電車、摩周丸の汽笛、ハリストス正教会の鐘などの「音」も取り上げたい。

○将来像について

【山口委員】

現状を把握しつつも前向きに捉えて将来を考える必要がある。

今の街の成り立ちの良さを納得する形で理解し、暮らし目線からの函館版の生活改善運動的なものを考えられる映像がいい。

【奥平座長】

将来像は映像的にまとめの部分になると思う。

【中尾委員】

充実している「医療と福祉」は誇っていいと思う。

将来的に売り出していく要素の一つだと思う。

【若松委員】

子供たちが将来函館で生活するうえでの関心からいうと「産業」は取り上げたい。

映像としては「新幹線の札幌延伸」は入れてもいいのではないかな。

【岩田委員】

函館でしか使わない、若い人たちが使わなくなった「方言」もクイズ形式で取

り上げると面白いと思う。

祭りとしては「五稜郭祭」や「クリスマスファンタジー」も取り上げたい。

【奥平座長】

グローバル化という視点で「クリスマスファンタジー」は将来像に繋がる映像が作れると思う。

方言は、地域のアイデンティティを守るうえで大事な部分である。「音」と一緒に取り上げると面白いと思う。

産業については、今までは「工業都市だった」が「観光都市になった」になっており、その次は何だろうと繋げると全部繋がってくる。

着々と整備されている「高速道路」も、空港インターまで出来るとどうなるかなどとやると面白いかもしれない。

今まで無かったものが出来たらどうなるのかを映像化できれば子供たちの興味を惹けると思う。

【山口委員】

歴史的・文化的なものを踏まえさせたいうえで、今の私たちの暮らしから未来を描く課題の提示ができればいい。

【大場委員】

授業では、自分たちが学んだことを基に、今後、どのような生活の仕方をしていくのか、よりよい社会生活のためにどのように関わることができるのかを学習のまとめとして行うことがある。そのような学習では、自分たちのまわりの生活や、さらには自分たちが住む地域について、これからのことや近い将来を考えたり、見つめたりすることとなる。

【奥平座長】

近い将来をどう見つめるかという方向性で進めていきたいと思う。

○その他

【安立委員】

函館が誇れるコンテンツの一つとして「函館どつくの進水式」も取り上げたい。

【大場委員】

今の函館の魅力や様子を知り確認するという視点が欲しい。

函館は魅力ある都市として認知されており、その函館の今の姿、例えば、西部・駅前・五稜郭地区などの様子も映像としてあるとよい。

3年生の社会科で、自分たちが住む身近な地域や市について知る学習をしている。学校の周りを調査し自分たちが住むまちの様子を知り、それを基に市全体の様子を理解する学習を行う。映像を活用することにより、学習内容の充実を図ることができる。また、今の函館に至る歴史・産業・人の関わりにも目を向けることができると思う。

【奥平座長】

シティプロモーションにも繋がる部分であり、融合させていければと思う。

【安立委員】

日本の発展とともに地方に延伸していった「新幹線」について、学ぶ機会はあるのか。新幹線の延伸一つとっても、国内での函館の位置付けを理解する一助になると思う。

【岩田委員】

交通の広がりを学習することはあるが、新幹線だけを取り上げ学ぶというのは

中学校でもない。

【奥平座長】

「青函トンネル」はかつて掲載されていた記憶がある。

新幹線の北海道延伸で本州の交通体系の一部が函館で見れるようになったという部分は触れてもいいと思う。

【若松委員】

地元ということで「道南いさりび鉄道」にも触れて欲しい。

【奥平座長】

道南いさりび鉄道の知名度を上げるという点で、シティプロモーションと抱き合わせで入れるのもいいと思う。

【岩田委員】

街のシンボルを「マンホール蓋の絵」にしている。小学3・4年生であれば、他の街のものと比較したり、自分たちならどんな絵を描くかなどをやると面白いし、まとめにもなりうると思う。

○映像制作に関する形態について

【奥平座長】

映像制作に関する形態について意見交換する前に、山口委員に他都市の事例などについて紹介いただきたいと思う。

【山口委員】

はじめに「多摩探検隊」という取り組みを紹介したい。

元々新聞社とテレビ局にお勤めだった松野先生という方が、経験を生かして地元のケーブルテレビ放送と一緒に地域情報を発信している。学生たちが地元の情報を丁寧に拾って、映像化しているのが印象的である。

次に、自治体の中には、精力的に地域情報を集めたり発信している所があるが、例えば、愛知県岡崎市や茨城県日立市、富山県などでは、映像コンテストを開いたり、地域の様子を映像で発信する取り組みが見られる。生涯学習施設を拠点に、これまでの取り組みを足がかりにしているところが強みだと思う。

次に、郷土資料や地域素材の提供について幾つかの事例を挙げたい。

道内では、中標津町で、社会科副読本「私たちの町 中標津」を閲覧できるようになっている。

また全国的な事業の1つに、図書館情報サービスを手がける民間団体「TRC」（図書館流通センター）の「ADEAC(アデアック)」という、デジタルアーカイブの取り組みがある。

今までは単に閲覧ください、という形で提供するにとどまっていたが、利用者から見て、テーマに応じて複数の自治体を見比べたり、たとえ他地域でもそれぞれの活動に見合った情報を拾ったりと、再活用を促す「受け皿」が整ってきているといえる。

自治体の方々にとっては、そういう受け皿にどんな情報を提供できるかということが大事になってきていると言える。

また、今は自分で素材さえ集めさえすれば、動画コンテンツをYouTubeなどの動画共有サイトにアップロードすることで多くの人たちが見ることが出来る仕組みがある。

【大場委員】

札幌市のホームページで伝統芸能を紹介する映像を拝見したが、ドキュメンタ

リー形式で、レポートとナレーション、関係者へのインタビュー、現在と過去の映像などで構成されており、授業で活用しやすい形態だと思った。

【岩田委員】

短編で作られたものが活用しやすい。

【奥平座長】

ドキュメンタリー形式で短編の集合体がいいとの意見がでたが、次に映像の上げ方について議論したい。

【大場委員】

私が勤めた学校では、校内に無線LANが整備されており、NHKの教育関係のサイトのコンテンツを各教室に設置されたプロジェクターでスクリーンに写しだし見ることが出来た。YouTube等の動画も授業の中に取り入れることは可能だと思う。

配付される一枚のDVDだと、教室の間での貸し借りの状況が生まれる。インターネットを利用するのであれば各教室で活用することも容易になる。

より活用しやすいのは、物（各校一枚のDVD）に制約されないものだと思う。

映像データを学校のホストコンピュータに取り込んで、映像を活用することも可能だと思う。

【安立委員】

DVDは補助的なイメージである。

函館市のホームページの中に映像を集めたページを作れば、そこに一般の人もアクセス出来るし、学校からもアクセス出来る。

今回の映像は函館市の財産として管理し、アーカイブする必要があると思う。

函館市公式観光情報「はこぶら」の中にも動画ライブラリーのコーナーがあり、函館の街案内・イベント・グルメなどのジャンル別に映像が整理されている。

【山口委員】

制作した映像は、図書館や各関係機関などにも見て欲しい。

しっかりと見たい時は媒体で、授業で使う時はインターネットでと使い分けられればいいのではと思う。

【大場委員】

各学校のインターネット環境の状況によって、DVD等の媒体とインターネットのどちらが活用しやすいかは変わってくると思う。

【安立委員】

出来上がった作品を媒体またはインターネットで配信するかは方法論で、主な焦点はどんな映像作品を作るかだと思う。

今回制作する映像は、テーマごとの短編というよりは、ストーリー性のあるもので作品として惹き込まれるもの、編集を加えた一つの作品というイメージで検討懇話会に参加した。

教材の補助ばかりではなく、函館のPRの作品という方向もあるのではないかな。

市外の人が見るのは、ひとつの作品として編集されたものだと思う。

【奥平座長】

短編と集合体のどちらがいいのか次回再度議論することとし、事務局には次回までに各学校のインターネット環境の確認をお願いしたい。

以上